

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 1 月 8 日作成)

小委員会名	企画戦略小委員会	主 査 名：小浦 久子 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：小浦 久子
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	都市計画委員会所属の小委員会および WG における研究活動成果を体系化し、出版物刊行、講習会・シンポジウム開催などを通して専門実務家や地域社会への公開と普及の促進を積極的に推進することを目的とする。上記目的達成のため、具体的な出版物や講習会などの成果として結実させることを重点目標とする。 あわせて都市計画本委員会のホームページにより、各小委員会およびワーキンググループのホームページへのリンクや出版・シンポジウム等の情報発信により、活動成果の公開と地域社会へ普及することを目的とする。 初年度：都市計画委員会の活動テーマとした国際的活動の展開のための準備研究 2 年度：国際的活動の展開を模索するとともに新たな研究課題の検討 3 年度：既成市街地の更新再生、歴史的文脈における生活空間再生にかかる論点・計画技術開発を担う新たな課題検討 4 年度：生活空間への新たなアプローチを研究協議会で公開議論する	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：小浦久子 (神戸芸術大学) 幹事：阿部俊彦 (早稲田大学)、伊藤香織 (東京理科大学)、村山顕人 (東京大学) 佐久間康富 (和歌山大学) 委員：山村崇 (早稲田大学)、土田寛 (東京電機大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	(1) 研究協議会企画運営 WG (主査：小浦久子) 2019 年 9 月に金沢で開催される大会・研究協議会開催へ向けての論点整理と意見の集約を行う。 (2) 大都市インナーコミュニティ持続再生 WG (主査：山村崇) 街区・地区レベルの空間の再生・整備と建築の再生手法を組み合わせ、コミュニティベースの小規模なまちづくり計画・事業を通じた面的な市街地環境整備の計画方法・事業制度を調査研究し、大都市既成市街地の既存の市街地開発事業では対応できないエリアでの実装化のための検討を行う。 (3) 地域文脈と空間変容 WG (主査：土田寛) グローバル化・新自由主義の下での開発規模の肥大化、20 世紀後半に計画・建設された新都市の解体と成熟、大規模災害の頻発、情報社会における現実とバーチャルの境界のあいまい化に対し、実際の空間体験を通じた検討から生活空間の再生に向けての論点の抽出を行う。	
2019 年度予算	225,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/i-000/i090-12.html

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	日本建築学会大会研究協議会の開催 参加者：118 人 (研究協議会企画運営 WG) 「ローカルな動きを創発編集する都市・地域の計画フレーム」
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 都市計画部門研究協議会「ローカルな動きを創発編集する都市・地域の計画フレーム」を企画・運営した。 2. 新規研究活動テーマの検討、立案、実施 (再編した小委員会の活動支援と 2 つの WG による新規テーマ開発) 3. 出版、講習会、シンポジウム等の企画、立案、実施へ向けた支援 (キャンパス・地域再生 WG 等の出版支援 など) 4. 都市計画委員会および各小委員会ホームページの管理
委員会活動の問題点 ・課題	都市計画委員会の基礎的活動を担う小委員会として継続的・効率的に機能しており、特に大きな問題はない。今後の都市計画委員会活動の展開方針と合わせて本小委員会のあり方を検討していく。